

調査・研究成果の展示公開（黒田記念館）

黒田記念室は、当研究所の創設に深く関わった帝国美術院長子爵黒田清輝の功績を記念するために設けられた陳列室であり、黒田清輝の油彩画、素描、写生帖等を収蔵公開している。

創立当時、主として黒田家から寄贈されたものは、油彩画125点、素描170点、写生帖等であるが、その後黒田照子夫人、樺山愛輔、田中良氏等からの寄贈が加わった。収蔵品の主なものは、「湖畔」「智・感・情」（以上2作品は、国指定重要文化財）「花野」「赤髪の少女」「もるる日影」「温室花壇」などである。

2007（平成19）年4月1日、独立行政法人国立文化財機構に統合されたことにもない、黒田記念館及び同館が所蔵していた作品は、東京国立博物館に移管された。しかしながら、黒田記念館、及び作品の公開のための業務と研究調査は、企画情報部研究員が同博物館の併任となって引き続き行うこととなった。平成20年度からは記念館1階の旧研究室で美術研究所時代に使用された家具、資料を展示するとともに、2階の一室で、黒田清輝に関するスライドショーを実施した。また、記念館2階の展示室を会場に、「特集展示 写された黒田清輝Ⅱ」と題して、平成18、19年度に遺族から寄贈をうけた黒田清輝関係写真等から27点を選び、原寸大に複製した画像を展示公開した（会期：2009年3月19日～7月9日）。

一般公開（無料）：毎週木・土曜日 午後1時～4時、特別公開：2008（平成20）年10月29日～11月3日、入場者数：19,038人（2008年4月3日～09年3月28日）

なお、黒田記念室のパンフレット（A4サイズ、三つ折）を作成し、来館者に無料で配布した。また2009年2月19日から3月21日まで、来館者にアンケートを実施した。2,246人の来館者に対して、312人から回答を得た（来館者数の13.89%）。回答は、「満足した」及び「おおむね満足した」97.43%、「不満が残った」6人（1.6%）、その他であり、アンケート回答の97.43%が満足感を得たことになる。

・地方共催展・作品の貸与

当研究所は、黒田清輝の功績を記念し、あわせて地方文化の振興に資するため、1977（昭和52）年から「近代日本洋画の巨匠 黒田清輝」展を年1回各地で行ってきた。平成20年度は下記のように開催した。

会場：神戸市立小磯良平記念美術館、会期：2008（平成20）年7月19日（土）～8月31日（日）

主催：東京国立博物館、東京文化財研究所、神戸市立小磯良平記念美術館、神戸新聞社、開催日数：38日

入場者：18,757人、陳列点数：油彩・パステル画85点、素描62点、写生帖17冊、書簡4通、日記5冊、参考出品2点、記録写真16点（以上、黒田記念館所蔵作品）、図録：A4版変形、182ページ

また会期中の2008（平成20）年7月27日（日）、会場出口において来館者にアンケート調査を実施し、161人から回答を得た（入館者数279人に対して、回収率57.7%）。満足度として「満足」、「おおむね満足」の回答が、100%をしめた。

作品貸与は以下の2件8点である。

黒田清輝「編物」「残雪」「昔語り下絵（構図Ⅱ）」（以上油彩画）：「明治の洋画」展（茨城県近代美術館、08.8.2-9.23）1件3点

満谷国四郎「提灯」「娘習作」「娘習作」（以上油彩）、「人物」「写生帖」（以上素描）：「五姓田のすべて一近代絵画への架け橋」展（神奈川県立歴史博物館 08.8.9-9.28）1件5点

研究組織

○田中淳、山梨絵美子、塩谷純、綿田稔、皿井舞（以上、企画情報部）